

指導者インタビュー（都立武蔵高等学校附属中学校・テニス編）

武蔵高等学校附属中学校の地域クラブ活動・テニスでは、4名の指導者がそれぞれの強みを生かしながら活動を通じて生徒の成長を支えています。今号は、地域クラブ活動に参加したきっかけや指導で大切にしていること、そして複数指導体制の魅力についてお話を伺いました。

—— 指導者のご紹介 ——



青山さん

指導歴13年。一般スクール指導とジュニア育成、自身も選手として活躍。現在はTEPROで2校を指導する他、部活動の外部指導者として幅広く指導を行っている。

モットー：
「テニスの楽しさを伝える」



石島さん

7年間都立高校でテニス部の指導を行う。また、自身の子供3人のテニス選手活動を20年間サポート。昨年度から、武蔵高等学校附属中学校で地域クラブ活動の指導者を務める。

モットー：
「まずはテニスを好きに」



中さん

地元で子どもたちへのテニス指導を経験。自身も選手活動を続けながら、日本テニス協会公認指導者資格を取得する等指導力向上にも努めている。

モットー：
「成長を実感できる指導」



山崎さん

教員として40年間テニス部を指導。テニス大会の運営にも携わる。退職後も高校・中学校で部活動の指導を続け、後進の育成に取り組む。

モットー：
「生涯スポーツとしてのテニス」

「テニスを通じて子どもたちの成長を支える」
地域クラブ活動指導者たちの思い

—— 地域クラブ活動指導者になったきっかけについて教えてください。 ——



青山さん

高校時代にテニスを始め、良い指導者と出会い、テニスの楽しさを実感しました。指導のお話をいただいた際、テニスを強くすることだけでなく、まずはテニスの楽しさを伝えたいという自分のモットーと重なり、応募を決めました。



中さん

以前から学校現場で指導することに興味があり、高校で部活動指導員を務める機会をいただきました。その流れで地域クラブ活動の募集を知り、この学校は比較的通いやすい場所だったこともあり参加させていただくことになりました。



山崎さん

—— 指導する上で大切にしていることは何ですか？ ——

私は体育教員時代から、生涯スポーツとして何か一つ続けられるものを持ってほしいと伝えてきました。

その中でもテニスは年齢を問わず長く続けられる素晴らしいスポーツです。

また、参加者には初心者から経験者までさまざまな生徒がいるため、一人ひとりに応じて柔軟に対応することを心がけています。

加えて、学校や保護者との信頼関係も非常に重要だと考えています。

それぞれの強みを生かした「複数体制」の指導



経験豊かな4人の指導者が連携し、生徒一人ひとりに寄り添う



石島さん

都立武蔵高等学校附属中学校ではコートが三面あるので、各コートにそれぞれ1名ずつ指導者を配置できる点が良いと考えています。

また、それぞれの指導者にも得意分野があります。例えば、青山さんには競技面を中心に担当していただき、打てるだけではなく、試合に勝つための戦術等も指導していただいています。山崎さんにはラリーが続くようになった生徒に対して、ポジショニングやコートの中での動き方の指導をお願いしています。

そして中さんと私は始めたばかりの生徒に対して指導を行っています。

このようにレベル別に分かれて指導ができるため、生徒に合った内容を提供できますし、生徒達の満足度も高いと思います。各指導者が役割を分担できるのは大きな強みです。レベル別に分かれることで目標をそれぞれ設定しやすく、指導者としても大変指導しやすいです。

また、それぞれ他の仕事で参加できないときも、指導者が複数いることで地域クラブ活動の実施が可能であるため、非常に心強いです。



山崎さん

安心して指導できる充実なサポート体制

部活動指導員として他の学校で指導している時は、基本一人ですべて行うため、けが人が発生するなど複数の対応が重なった際には難しさを感じることがありますが、地域クラブ活動では、信頼できる指導者陣やTEPROのスタッフと万全な体制で活動ができているため、大変ありがたく思っています。



中さん

レベル別で練習内容を工夫して指導を行うことで、はじめはテニスを始めたばかりでボールにうまく当てられていなかった生徒も、段々とラケットの中心にボールが当たるようになり、しっかり飛んでいくようになってきています。このような成長を見られることがとてもうれしいです。また様々な指導者の方と一緒に指導に入ること、指導方法など自分自身にとっても、非常に勉強となる部分があります。ここまでスタッフ体制が充実している環境は珍しいです。コーディネーターの方々のサポートも含め、非常に恵まれた体制だと思います。

夏の安全に配慮した取り組み ～熱中症対策～

WBGTの数値にあわせて、活動場所を日陰の場所等に変更しながら、活動を行っています。



前半終了後、20分間クーラーの効いた部屋でクーリングオフを実施。後半に向け、水分補給・塩分チャージを摂取ししっかり休憩をとっています。





生徒との信頼関係づくりと成長

「まずは楽しんでもらうこと」を大切に



青山さん

思い通りにプレーできず、ミスをして落ち込んでしまう生徒も多いため、励ましや声かけを通じて、「ミスしても大丈夫」と思える雰囲気づくりを心がけています。

そうした関わりを続ける中で、生徒たちの成長を実感することもあります。以前指導していた学年には、周囲への意識がまだ十分ではなかった生徒がいましたが、2年後には後輩へ積極的に声をかけたり、**仲間を励ましたりする存在へと成長**しました。私が普段伝えていた言葉を使って周囲を支える姿を見たときは、本当にうれしく感じました。

TOPICS



お話を伺って…

活動の様子を見学する中で、それぞれ異なる経験や強みを持ちながらも、「**テニスを好きになってほしい**」「**生徒の成長を支えたい**」という**共通の思いで指導**されていることが伝わってきました。また、複数の指導者やコーディネーターが連携することで、一人ひとりに応じたきめ細かな指導が実現されていることも大きな魅力です。今後も地域クラブ活動が、生徒たちの成長を支える場であり続けられるよう取り組んでいきます。

~~資格取得支援について~~

指導者資格取得の重要性

部活動の地域展開が進む中で、指導者にはこれまで以上に安全で適切な指導を行うための共通理解と基礎的な専門性が求められています。

特に成長期にある中学生を対象とした活動では、

技術指導の他にも、「**心身の発達段階への配慮**」「**安全管理・事故防止**」「**ハラスメント防止**」などに関する正しい知識を備えることが不可欠です。

国や都の方針でも資格取得を推進

コロナ禍以降のスポーツのあり方を示した「第3期スポーツ基本計画」（スポーツ庁）や「東京都スポーツ推進総合計画」（東京都スポーツ推進本部）、「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」（東京都教育委員会）では、できる限り公認スポーツ指導者資格を有する指導者による指導が求められています。今後は、指導現場全体で指導者資格の取得がより一層重要になることが見込まれています。

TEPROの取組

こうした背景を踏まえ、地域クラブ活動に携わる指導者の皆さまに資格を取得していただくことで、「**指導に関する認識・対応の統一**」「**生徒・保護者・学校が安心できる指導体制の構築**」を進めていきます。

令和8年度からの支援内容

TEPROでは、現在指導者要件となる資格をお持ちでない方を対象に、

- JSPO公認「スタートコーチ」等の資格取得支援
- TEPRO独自の研修を実施し、受講者に対して認定証の発行を予定しています。

編集後記

今号は「指導者インタビュー」をお届けしました。皆様からの地域クラブ活動通信のご感想や、今後特集して欲しいテーマ・内容等のご意見をお教えいただけますと幸いです。

アンケートはコチラから▶▶ <https://logoform.jp/f/wUkc5/>

